

平成27（2015）年度

第二回 吹田市立博物館協議会

議 事 録（要旨）

日 時 平成27（2015）年 10月30日（金） 午後1時30分～午後4時00分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・田中（敏雄）・田中（英世）広瀬・辻本・外川・岩崎・佐久間・伊藤・大元
委員 （欠席 大森・岸本委員）

傍聴者 なし

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

（副館長）出席委員数は職務を委嘱している13名の過半数を超えています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 新委員の紹介】 藤井副館長

学校教育関係者 新委員の田中（英世）委員の紹介と挨拶（前回欠席）。

【4 職員異動】 地域教育部次長・室長が異動。山本が着任。（9月14日着任）

【5 案件（1）事業報告（平成27年度前半～）】

（議 長）事業報告（平成27年度前半～）について事務局から説明を受けたいと思います。

（副館長）観覧者数について P3・P4の資料に基づき説明。観覧者数合計は、展示室に入って展示を実際に観覧された方の人数です。講座等受講者数は、様々な普及事業、講演会等にご参加頂いた観覧以外の博物館を利用された方の人数です。入館者総数は、観覧者数と講座等受講者数を加えた数です。平成27年度は10月1日現在で観覧者数が7,397名、講座等受講者数は7,818名、入館者総数は15,215名です。これから冬の特別企画を中心に利用者が増えて、今のペースで行きますと平成24・25年度と同じぐらいの数字になると考えています。

P4は平成27年度の月別観覧者数等集計表です。表の下には、展覧会ごとの数字を記載しております。展覧会ごとの観覧者数の動向は、春季特別展については、観覧者数は昨年に比べ2,000名以上増えて3,784名。講座等受講者数も約1,000名増です。入館者総数合計は3,261名増で6,100名です。数字的には、大変よい結果が出ています。企画展は、昨年に比べ、98名減になっています。夏季展は、観覧者数1名増です。講座等受講者数は847名の減少です。これは観覧者数の増加をめざして展示に力をそそいで準備をした分、イベントがやや手薄になった結果かと思います。博物館実習展は、観覧者数は

233名の増加。講座等受講者数は544名の増で、入館者数は777名の増加です。昨年に比べ数字のうえでは改善されていると思います。現状では企画展、夏季展のマイナスを実習展が補い、春季特別展の増加分だけ昨年よりは数字的には良い状況になっています。

(事務局) 博物館のP5～P17に基づき事業報告。P18～P21のグラフについての説明。春季特別展は他の展覧会と比べ、観覧者が講座等受講者より多く、西村公朝氏の人気の高さがうかがえます。男女別では企画展が女性が圧倒的に多く、昨年と同じ傾向です。さわる展示の傾向として顕著な点です。来館者の住まいでは市外が多いなかで、夏季展は市内が優勢です。すべての展覧会において9割以上の方が満足していただいたようです。

(議長) 意見などございませんでしょう。

(議長) P7。来館者アンケートの中のハンズオン展示について、疑問があり意味が分かり辛いのですが。

(事務局) 大学教員からのご批判ですが、実物資料を比較してさわるができる。縄文、弥生など土器を比較してさわることによって、形状等でその時代性を理解するということを期待をしていたようです。今回の「さわる」展示に関しては、博物館の実物資料を出さなかったのも、博物館収蔵資料なりを「さわる」ということの大学教員の期待とはズレた展示内容になっていたということです。

(議長) 大学教員のハンズオンの捉え方が、間違っているみたいですね。

(事務局) ハンズオンに必ずしも正解はないと思います。必ずしも間違っていると私自身は個人的には思いませんが、少なくともその方の期待とはズレていたのは事実だと思います。

(議長) この企画展で実物をさわられるという誤解は多少は受けているということですね。

(事務局) お一人のご批判からは判断はつけることはできないと思いますが、博物館だからと思っている方が他にいたとしても、私自身は不思議には思いません。

(議長) 他にございませんでしょうか。

(委員) 質問ですが、P3の観覧者数合計と講座等受講者数ですが、観覧者数は、展示室に入った人の数、講座等受講者数は、展示室には入っていない人ですね。入館者総数は、この両者の合計になるわけですね。講座を受けて、その後観覧料を払って、展示室にも行った人の数はわからないですね。受講した人の数も入れてもよいのではないのでしょうか。

(副館長) 受講した人の数が、講座等受講者数です。入館者数の中には、展示だけをご覧になった方と講座等だけを受講した方と展示も観たし、講座も受けた方の3種類がございます。講座を受講し、かつ展示を観覧いただいた方の数字を把握するのは難しいです。

(議長) 私の経験では、体験型のイベントをした時には、ほとんど展示室には入らない傾向があります。歴史トークとか展示に関わるレクチャをした場合は、展示室に入ってもらえる傾向がありますが、今はそういうこともないのでしょうか。

(副館長) お話しの通りです。講座を受講して、展示室に入る方は多いのですが、講座も複数回実施しており、講師が変われば何度でも聞く方も多いです。その方が受講のたびに展示室に入られるかということもありません。展示観覧は一回だけということが多いです。その差が観覧者数より講座等受講者数の方が多くなる原因としてあります。体験型のイベントでは展示室に入らずお帰りになる方が多く、益々講座等受講者数は増えていくかと思います。

(議長) 他はいかがでしょうか。

(委員) 夏季展示ですが、「すいたの自然はっけんシート」を4年生を対象にしたのは何か理由があ

るのでしょうか。

(事務局) 4年生にしたのは、4年生になる直前の3年生の冬に、「むかしのくらしと学校」展で博物館に学校から見学に来ることが多いので、博物館に少し理解があるということと、学校教育で理科学習が3年生から始まり、1年間理科を学んでいるということです。5・6年生も考えましたが多忙を理由に今回は4年生にしました。その結果を踏まえ、来年度対象学年を広げることも検討します。

(議長) 今年来た4年生が5年生になり、学年を上げることも有り得ますか。

(事務局) 新5年生になると2回目になるので、もう少し協力してくれると思います。来年の新4年生は、冬に来る3年生です。内容をもう一度検討して対象学年を考えたいと思っています。

(委員) 自然系の学習をする場合、3・4年生が生涯学習施設を利用するのが一番多いので、今回の学年で良いと思います。特に自然系のことをしているのでそう思いました。夏の特別展が、小学校との連携を含めて全般的に地域密着型になっています。そういう意味でイベント参加者が多い。展示と中々結びつかないのは、やむをえないところもありますが、秋季特別展が価値発信型で、各々特別展の特色が出ている数字だと思います。一つ教えて頂きたいのが、「さわって楽しむ博物館 in すいた」と最後に付けているのは、これは他の博物館での展開を意識して「in すいた」を付けているのですか。

(事務局) 企画協力いただいている市民・ボランティアの方に集まって頂き、アドバイザーの先生にも来て頂いて決めました。その中で「吹田から発信するんだ」という意味を込めて「in すいた」を付けて欲しい・付けるべきだ」という意見が出ました。

(委員) 他の博物館での展開があるとそこと違った展開になって、そこから出てきたらおもしろい展開になると思って質問しました。

(議長) 年齢別の来館者数で20歳代が落ち込んでいます。19歳以下と20歳代の大学生が含まれていますね。大学生を引くともっと落ち込みます。何故なのでしょう。同様に50歳代もですね。

(副館長) 20歳代の落ち込みは、今年度に限らず一般の傾向として言えますが、落ち込みの度合いの激しさは、幾分テーマに関係あると思います。例えば、ニュータウン・万博などをテーマにすると20歳代の数字が急に上がったりします。全く博物館がそっぽを向かれていますのではないと思いますが、辛いところです。実習展が少し多いのはご指摘の通り、大学生が来館していると思います。60歳代を中心に70歳代が吹博のゴールデン世代と前回申し上げた記憶がありますが、50歳代もわりとお越しいただくことが多いのですが、夏季展の数字の低さは夏季展では実行委員会が子どもをターゲットに意識して実施され、その結果として19歳以下が多いということで、ある意味成功はしていると思います。企画展と50歳代の落ち込み理由については掘り兼ねています。

(議長) 実習展も20歳代を呼ぶには効力を発揮していますね。実習展をしなければ凄まじいことになっています。

(委員) 年齢別の来館者数ですが、60歳・70歳代は全体で高いのですが、60歳・70歳代の男女の割合はどうでしょう。過去の年代別入館者数の男女の比率がどうなっていますか。

(副館長) 男性が多い印象を受けます。これもテーマによって変わると思います。西村公朝展は、女性が多かったですが、会期前は女性が圧倒的に多いと思っていましたが、男性も意外と多かったという印象を受けました。

(委員) 私が活動している会は、歴史探訪のバスツアー、講演会を行います。テーマにもよりますが、年々特に歴史探訪バスツアーなど女性の参加比率が高く、なぜだろうという疑問を持っていましたのでお聞きしました。

(議長) 次の案件に行きますが、何かありましたら次の案件の折に、案件(1)の方にもふれていただければと思います。(2)の事業計画 平成27年度(2015年度)後期～28年度(2016年度)前期の事業計画(案)を説明していただきます。

(事務局) 平成27年度(2015年度)後期～平成28年度(2016年度)前期の事業計画(案)を説明。

(議長) 事業計画(平成27年度後期～28年度前期事業について)ご意見等ありませんでしょうか。

(委員) P28。平成28年度春季特別展は、「田園都市・千里山」を取上げていますが、以前千里ニュータウンをされました。田園都市・千里山と千里ニュータウンは、約4、50年の差があるわけですが、これを比較すると面白いと思います。企画に入れていただけたらと思います。千里山のロータリーを中心に町が造られ、車社会に移行して、車が発達する時代の中で町がどのように変わっていったか。この辺りが面白い着眼点かと思います。千里山の場合、道路が非常に狭いです。千里ニュータウンの場合は、幹線道路、生活道路を明確に分けて、生活中心の道路網を作り、町の勢い、便利さを捉え高速道路へ繋ぐ道路網が作られています。4、50年で変化したあたりもポイントとして面白いと思います。もう一点、P24。特別展等展示中期計画の平成31(2019)年の春季特別展「貴志康一生誕110年」で貴志康一氏を取上げていますが、イベントで貴志康一氏の曲を生演奏して欲しいと思います。

(事務局) 平成28年度春季特別展「田園都市・千里山」は、内容・テーマが千里山ですので、それが中心になります。時代的な時間軸、地理的な軸、両方で比較をすることは大切だと思いますので、多少なりとも盛り込むことは必要かと思います。物で比較まで落とし込めるか判りませんが、意識を持って実施をしたいと思います。貴志康一については、生演奏についてはご要望として承りました。

(委員) P29。「暮らしの中の美術 吹田と大坂画壇」は、内容・展示趣旨を読みますと、今回は大坂画壇という絵だけを取り上げて展覧会を開催されますが、中西家、西尾家など吹田には多くの庄屋がありました。庄屋が所蔵されていた絵画だけではなく、調度品、茶道具、農具とか機会があれば江戸時代の庄屋文化をもう一度総合的に考えて頂けたらと思います。各旧庄屋さんに伺うと物が段々と散出し、記憶が喪失されていっていることも多いので総合的視点をもっていただきたい。それが一点目。イベントの日本画画材でのワークショップを具体的にどういう形にするのか、今お話を聞くと画材とか紙等を提示されると思いますが、顔料とかどういう形でされるのかよく判りません。私は、軸、屏風、画帖、箱、古文書等の取扱い方、保存の仕方等のワークショップをイベントとして行ってもいいと思います。

(事務局) 江戸時代の庄屋文化の継承の件は、文化財保護課でも、旧西尾家・旧中西家の保存活用について積極的に行っていますので、連携をして世に伝えるような展覧会やイベント等が出来るよう協議、協力していきたいと思います。イベントですが、素材に触れるワークショップと書いていますが、取扱いや保存についてアプローチが出来るワークショップ、展示として軸は巻いて保存をしますとか何か提示出来るような展覧会をもっと考え、充実したものにしていきたいと思います。

(議長) 目黒区の美術館で降旗千賀子さんという方が、30年ぐらい画材のワークショップをされています。画材のワークショップのネタが、画材の引き出しの美術館という本で、画材一つずつがミニ博物館になっているような引き出しですが、絵画とかそれに合わせ、それに因んだ画材の引き出しを引いてきてワークショップをしている例があります。

(委員) 二つ質問というか要望ですが、1点目は、「むかしのくらしと学校」についてです。これは定番で博学連携でやる意義は十分理解していますが、期間が12月8日から4月3日で4ヶ月。学校カリキュラムとの関係もあります。あまりに長い。学校関係者にとって必要だと思いますが、一般目線で見

ると4ヶ月で一年の三分の一をこれに費やし、毎年ほぼ変わらない。事情の知らない人からすると博物館活動が停滞していると受取られかねないと思います。将来的には「むかしのくらしと学校」の会期を短縮し、春季・秋季の特別展を長くするとか検討の余地はありますか。2点目は、要望ですが、先ほど企画展について事務局から丁寧な説明があり、「さわる」ことも意識して、ワークショップ等関連行事を考えるとということで大変期待をしています。「さわる展」ということで毎年実施してきたものは、一先ず終了ということで学芸員とも話し合い、終了というよりも発展だということで館の姿勢を支持しますが、一つ気になるのが今まで「さわる展」の関連で、視覚障がい関係の点訳、音訳ボランティアの方々の意見交換会が必ず行われていました。今年度の総括の中でも視覚障がい者団体との連携が総括されていたと思いますが、市内の点訳・音訳ボランティアとの10年に渡っての意見交換が今後無くなるのか。「さわる展」関連でバスツアーが企画されますが、中々博物館に来れない高齢の方や視覚障がい者が、バスツアーに参加して大変喜ばれ、吹博の社会貢献的な意味で意義があったと思いますが、「さわる展」に関連する連携であり、社会貢献的活動の部分が今後どうお考えなのか2点お願いします。

(副館長) 一点目の「むかしのくらしと学校」展の会期の問題ですが、小学校3年生の学校見学に先駆けて、学校の先生方に下見の為の見学会を実施しています。年明けすぐに見学に来るので、冬休みに入る前に見学会を実施する必要がありますが、冬休みの直前は先生が多忙や日程的な制約があるので、このような日時が設定されています。課題がクリア出来れば少し後ろにずらして、秋展を伸ばすことは可能だと思います。先生方との調整が必要です。終了日については小学校の見学は1月中旬から3月初めとなります。折角学校から見学に来て頂いたので、今度は家族の方とリピーターとして来て頂きたい。そのためには春休みが一定効果があると考え、4月3日にしています。会期が長いというのも分かりますので、ボランティアの方と一緒にやっている展示ですので、ボランティアの方とまた学校とも検討・調整が必要になってきますが、検討させて頂けたらと思います。

(事務局) 「さわる」展関係は、市民団体との連携としてイベントに毎年協力していただいています。来年度は大坂画壇の企画展の時期が、今年度の「さわる展」にあっていますが、会期中に「さわる月間」的な形で市民の方たちと話し合っ、イベントを実施することを引き続き予定しています。市民団体との協力関係はこれで終わりということは考えておりません。バスツアーは、来年度は実施をしません。担当した時に関してだけ申し上げれば、広報の努力が不足していたかもしれませんが、残念ながらバスツアーに参加していただける視覚障がい者の方は決して多くはなかったです。参考の情報としてお伝えしておきます。

(事務局) 「さわる展」で毎回行われていましたバスツアーとは別に、今回は吹田市内の美術品を中心に展示をします。これまでは「さわる」展でしたので、ハンズオンとか「さわる」展示を積極的に行ってきました。今回は吹田市内の庄屋さんとか施設を回るような見学会を企画しています。バスではなく歩いて見学し、そこでどの様な生活をしていたのかを見るような見学会を実施しますので、そちらと一緒に見学し、高齢者の方にも楽しんでもらえたらと思っています。

(委員) 事務局から発言があったように「さわる」月間と名を打つかどうかはさておいて、そういう取組みを継続して下さるならバスツアーは拘りませんが、これは前回の協議会の時にも申し上げましたが、もし「さわる展」での意見交換やイベントを継続していく意思統一が学芸員で出来ていれば、事業計画に是非明記して頂きたいと思います。

(議長) プログラムにこういう展示もしますという感じで入れればいいということですか。

(委員) 内容が残る続けるというのであれば、形は何でもいいです。

(事務局) P25に連携という項目がありますので、今回の配付資料の修正という形でよろしいでしょうか。市民団体との連携ということで盛り込み、間違いなく来年度については、事前の打ち合わせ会を実施し、イベントに臨むことは確定していますので、ここに追加で掲載します。

(議長) よろしいですか。

(委員) よろしいです。

(議長) 展示の話が中心になっていますが、P26の古写真のデジタル化事業ですが、先程の案件の分で写真原版を貸出している事業があったと思いますが、P15の写真撮影・原版利用ですが、デジタル化というかデータ化されたものを提供しているのでしょうか。デジタル化も今欧米ではほとんど終わって、デジタルサービスをしているので原版は極力保存する方向に進んでいると思います。古写真と同時に今デジタル化が終わっていたら良いと思いますが。そこら辺はどうでしょう。

(事務局) P15の写真撮影・原版利用について、3人の方に提供したのは以前デジタルカメラで撮影したものです。8月30日に提供したものは、以前フィルムで撮った物をスキャンしたものです。フィルムのデジタル化は数年前から取り組んでいます、マイクロフィルムが膨大な量で、あと数年はかかります。まだ半分も行っていない状況です。

(議長) 貸出し事業の中で、貸出し依頼がきたら作成するという感じですね。

(事務局) マイクロフィルムというと白黒になりますので、不鮮明な分がありますので、提供するとなると新たに撮影ということも結構多いです。

(議長) P24の中期の計画でいろんな展示テーマが見えてくるので、何年に実施するかをうたわずに、先ほど市民公募の周知率が高いようなデータが出ていたので、こういう展示を考えていますと市民に投げかけて、寄贈・寄託・資料とか展示のプランニングなんかも集めたらどうでしょう。最近、新館蔵資料は、歴史資料が中心になっていますので、新館蔵資料をいろいろ整える為にも、こういう展示をするので何かありませんかと投げかける。そういう前倒し広報もあり得ますか。

(事務局) 過去の経験例からいきますと、吹田の古写真を集めたいと思い、アルバム展か万博展の時に市報に掲載したことがありますが、一枚も集まりませんでした。市報で声掛けをするよりターゲットを絞って声掛けする方が効果的だと思います。

(議長) 従来展示する前の基本調査を積極的にするしか手がないという感じですか。

(委員) 西村公朝展を開催した時に、その前に写真展をされましたね。事前周知と言う意味では、イベントが前倒しになったと思います。今度の千里山の展示でも田園都市要素を感じられる部分は、昔の水田の草地が残っている所を歩いてみるとか、イベントが前倒しになるというのは、特別展の前哨戦というかプレリユードというか、盛り上げには役に立つ可能性はあるので難しいこともあると思いますが、中期計画があるのであれば、その特別展のイベントは、会期中だけというのは忙し過ぎてしまうので、直前でなく、少し前に実施する展開の仕方もあると感じました。

(議長) 寄贈品というか収蔵資料の件もあったのですが、望みにくいということなので。前倒しでイベント計画が出来たり、見通しが中期計画によって立てば喜ばしいことだと思います。

(事務局) 今回秋の展示に関しては、プレイベントで「写真でみせます吹田の古地図」というのを実施して、かなり人が集まって頂いたので、よかったと思います。ただ、特別展の直前に別のイベントを実施するとなると負担があるのも事実です。イベントによっては、直前の実施が困難なものもあります。

(事務局) 博物館の規模の問題、学芸員の人数の問題とか当館の場合、特別展、企画展担当が基本一人で、実施をし、内容から何から一人で考えることになりますので、出来る範囲内ということになります。

す。図録が作り終った後に、話を一般向けにするなどの形ではありうると思います。

(議長) 案件(2)に関して、これで終了したいと思います。案件(3)の課題討論に方に入りたいと思います。

(副館長) P30は昨年度の事業評価報告です。皆様方に頂いたコメントをそのまま、まとめさせていただいています。内容は事業について評価頂いた部分がある一方、要望も含めて改善等ご指摘頂いた所があります。改善につきましては、館員の努力で何とかなるものもあれば、館員の努力だけでは難しい市全体で考えなければいけないものもあるかと思えます。

まず、常設展示ですが、リニューアル計画がまとまっていないということですがその通りです。これについては、第二次中長期計画の中にリニューアル計画を検討していくことを盛込んでおりますので、こちらの方でまとめていくように心がけたいと思います。

P31の企画展は、今後より一層展示方法の工夫をということですが、更に精査してより良い展示を工夫するように努めていきます。

夏季展示は、口コミの評判はよかったために展示品なり展示メッセージの魅力が必要です。とあります。平成26年からなるべく展示室にお客様に入って頂く、イベント型ではなく展示観覧型に変えていく意図のもとにやっています。それなりの結果があったと思っておりますが、まだまだ不十分な所もありますので、その次の「制作する側の学芸員、市民、外部アドバイザーに共通したビジョンを持つ必要がある」とのご指摘いただいた方向で今後、展覧会に臨んでいきたいと思えます。

P32の秋季展は、「博物館がサイト・ミュージアムという本質的な使命を持つことを改めて呼び覚ましている」ということですが、紫金山公園との一体化した館の運営を中長期計画にうたっていますので、もう一度見直すことも含めて、この問題については取組んでいきたいと思えます。

特別企画「むかしのくらしと学校」ですが、「60～80年代といった身近な年代を展示するべき」というアンケートの意見があり傾聴すべきだということですが、これも学習指導要領がいずれこの年代をターゲットにしたものに改訂されると思えます。その折には、当然学校教育との連携をうたった展覧会ですので、取組んでいきたいと思えます。ボランティアの方とも議論しているところですし、その方向で進んでいきたいと思えます。定番のさわる展・夏季の自然展とも「陥りやすい受けねらいだけの一般化を常に危険視する必要があるだろう。」とのご指摘ですが、その危うさは併せ持っているところがありますので、しっかり抑えながら取組みたいと思えます。

市民参画は、P33(3)ボランティアでは、「ボランティア、連携団体、市民キュレーター、エディケーター、更にはリピーターとしての学習者など市民連携を多様に求めすぎ活動が分散している。」「吹田市立博物館に一番ふさわしい市民参画は何か検討が必要。」「市民キュレーターとミュージアムエディケーターのすみわけも難しい。」というご指摘があります。確かにその通りです。こちらも交通整理をしていく必要があると思えます。大きくはボランティアと展示の実行委員会に二分して、ボランティアの方にはキュレーターやエディケーターなどの機能を持って頂くことでどうかと思っております。将来的には、連携団体も含めたボランティア、実行委員会の関係も明確に一元化していければと考えています。これにつきましても、第二次中長期計画で必要性を位置づけていますので、進めたいと思っております。

地域学習の支援は、レファレンス業務の強化、データベースの作成、これもご指摘の通りかと思えます。特にデータベースは、第一次の中長期計画では進みませんでした。これまで費用の面で進まないところがありましたので、図書館との連携を果たしながら費用の面を解決して、進めていければと思

っています。

情報発信は、広報がまだまだ弱いというご指摘がありますが、中々難しい問題ですが、更なる工夫ということと、口コミが意外と有効だと改めて分かりましたので、どう対応すればいいのか皆で考えたいと思っています。

学校教育は、P34の「小学校6年生の取組みの充実が望まれる。」とありますが、常々博物館の課題となっていました。工夫の余地は6年生についてはまだまだあると思います。先生方の協力が中々難しいという部分も多いのですが、取組みを強化していきます。

資料の収集と保管は、(1)資料の収集では、「特別展での寄贈、寄託の呼びかけがなしとなっている。」ですが、テーマによって持って行き様があるのではと思いますが、準備段階として必要な場合は、積極的に忙しいとか忙しくないとか関係なしにやるということを進めていければと思っています。(2)収蔵庫については、「西村公朝資料受入れのために収蔵庫の継続。」これも中々進んでいませんが、後ほど報告いたしますが、来年に向けて要求の強化を現在しています。収蔵資料のデジタル化も一生懸命なくってはけません。

調査研究は、「市内の古文書調査や目録作成が疎かになって、企画・展示関連のものが中心になっている。」これもその通りでございます。何とか努力していきたいと思っています。

施設の整備・維持管理は、「サービスエリアからのアクセスが進んでいません。」ということですが、国交省がサービスエリアと外部駐車場とを結んで地域活性化を図るモデル事業をするようです。残念ながら外部の駐車場なので博物館とつなぐモデル事業ではありませんが、紫金山公園の駐車場もありますので、もしかすると動く可能性があるかもしれません。費用の問題ですが、当館がやるということであれば100%当館の費用でやることになると思います。博物館へのアクセスのバスは、以前に市役所が福祉バスを実施して、博物館を行き先の一環として、バス停を作ってもらったことがあります。市内全体の事業見直しで福祉バスが無くなっています。博物館単独でするのは難しい事業かと思っています。市役所全体で福祉バスを復活した場合は、是非、博物館も入れて頂けたらと思っています。

社会貢献は、「JICA事業の貢献の果実をどのように市民に見せることができるか。」ということですが、北大阪ミュージアム・ネットワークも同じですが、結果をどう博物館の中に蓄えていくのか。難しいところもありますが、ご指摘はその通りだと思いますので取組みを進めて行きたいと思っています。

(議長)丁寧の説明いただきました。タイトルは討論になっていますが、意見などで私は書いたのに文章がないとか、文面のニュアンスが違うとかございましたら言ってください。よろしいでしょうか。今日、博物館に来る途中に紫金山公園のバス停があります。「博物館口」になればと見ていたのですが。

(副館長)なればいいですね。交渉の余地はあるかもしれません。阪急バスに相談してもいいと思います。

(委員)資料のデータベースは非常に重要なことです。今のお話で今後図書館との連携のなかで活路が見出されるかどうかというお話がありましたが、若干どんな見通しをお持ちなのかお願いします。

(副館長)データベースを公開するソフトを作るのに大変な費用がかかるようで、しかも日進月歩なので一回作れば済むことではなくて、数年後に絶えず更新しなければなりません。その点で止まっています。私たちだけが見る資料、例えばエクセルなどの市販のソフトを使用したものでしたら、ある程度出来上がっていますが、それをどう公開していくかというところです。図書館は、以前から館蔵目録を作って公開しています。図書館は、テキストデータなのでやり易いようですが、それも同じように更新をしていかないといけないので、図書館も悩みを持っているようです。図書館の更新の時に博物館

も仲間に入れてもらって、博物館は博物館、図書館は図書館で作りますが、システムを同じような位置づけでやってくれば費用が2倍かからず少し安くなって、もしかしたら、図書館の分に若干の上積みをするだけで博物館も出来るということも可能かなあということ図書館の方から聞いております。いっしょにできれば進む話かと考えております。

(委員) 市民から見れば図書館も博物館もある意味働いている方は、別ですが両者の観点から見れば近い所から入れて、いろんなものが見れたら、それはそれで良いのかなあと思います。

(議長) 先ほどの写真のデジタル化は欧米の博物館は、日本の企業とか大学に丸抱えでデジタルスキャンなどをしてもらっています。吹田でどこかの大学と連携する方法もあるかと思えます。

(副館長) 今は、学芸員が一つずつスキャンしてやっていますので、なかなか進まないのが現状です。かつては、大阪大学とどうかとも考えたこともありますが、中々うまくいかないところもあり、関西大学は可能性があるかと思えますが、どこもいろいろと仕事を抱えていますので、大学側にもやる意義が存在しなければ、中々話が進まないと思えます。そこをどう見出せるかだと思えます。

(議長) 学校関係でどなたかございませんでしょうか。

(委員) P34の学校教育との連携で総合評価点が間違っているのではないのでしょうか。5.57点ではなく、3.6点ぐらいではないのでしょうか。

(副館長) まちがっています。3.57点正しい数字です。

(委員) 博物館の存在を知って頂きたい一心ですが、様々な所でPRをすごく考えておられるなあ今回感じています。提案としては、看板というと博物館の駐車場入口にある看板は、すごく分かりますが、入口からここに通って来る途中に看板が欲しいです。身近で簡単なことでありながら、中々出来ないと思えますが、駐車場に入った方がいいが「どう行くの?」というのが一番ネックになっていると普段遊びに来た時に思えます。難しい所だと思えますが出来たらいいと思えます。一点お聞きしたいのですが、駐車場が博物館の物というのを今知ったのですが。

(副館長) 入口の駐車場は、博物館が管理しています。紫金山公園は公園を管理している部署が市役所の中にありまして、そこが管理をするのですが、事務所がこの辺りにはないので、職員がいる博物館が管理をしています。実際、博物館利用者が使用している率が一番高いのも確かだと思えます。

(委員) 駐車場にいる警備員さんは?

(副館長) 警備員さんは、博物館の予算で雇っています。管理者は博物館ですので、管理をやっている人も博物館の事業費でお支払いしています。

(委員) 博物館の予算を使っているのですしたら、駐車場に博物館案内の看板があつてチラシを置くとか、警備員さんを博物館関係者として博物館案内に使って頂いたら、一般の方にも分かって博物館に目を向けていただけると感じました。

(副館長) 警備員ボックスは入って来る人の方に向いていないので、管理の人が自分の所からどこからどう入ってくるのか見えないんです。後は公園利用者が使う駐車場ですが、それ以外の用途でお使いになる方もわりとおられるので、どちらかと言うと監視の方が強くなります。博物館のためにというのは、その通りだと思いますので良く分かります。時々そういう話もしています。管理がうまく機能すればもう少し上手くいく例もあると思えます。アンケートを見ても、公園の中に来て博物館の場所が分からない方がおられます。そこは、改善の余地があると考えます。看板もどの程度の規模で、どんな物をどこに立てるかによって費用が変わってきます。簡単にお答え出来ませんが、私たちも痛感してまして看板を作成して、博物館に辿り着いていただけるといいと思えます。ポスターは貼らせていた

だいておりますが、チラシは置いていません。

(議 長) 案件(3)は時間が迫っておりますので、この辺で終了しますのでご確認を。

(副館長) 一点間違いというご指摘いただきました。それ以外は特に無かったように思いますので、今後は議長に修正をお任せし、皆様ご一任頂けたらありがたいです。よろしいでしょうか。

(議 長) よろしいでしょうか。

(副館長) 議長とやり取りしながら完成させたいと思います。ありがとうございました。

(議 長) 最後の案件で(4)その他。収蔵庫・特別展示室増設・紫金山公園ビジターセンター建設について説明いただきます。

(副館長) これは報告事項でございます。ハードの関係で収蔵庫・特別展示室増設・紫金山公園ビジターセンターの3つが中々予算の関係で進まなくて、評価の所でも一番辛い点数がいつも付いていますが、新委員もおられますので、再度どういう内容なのかご報告させていただきます。実施計画といひまして、各所管が将来5年間に渡って取組んでいきたい事業を市役所の企画部に毎年提出します。博物館が提出したものがこの3つです。

収蔵庫は西村公朝さんの作品を収蔵し、年一回程度の定期的な公開をするために平成28年に増築したいということです。仕様は延べ床面積138㎡。そこには鉄製の収蔵ラックを置き、一般収蔵庫にある土器や瓦を中心としたものを増築収蔵庫に移動し、一般収蔵庫を空け、そこに西村公朝作品を収蔵しようという計画です。

P43は特別展示室の増設です。西村公朝資料の展示を年一回だけではなく常設展示とするため、また現状の特別展示室が手狭で、観覧者から展示資料が少なく、たったこれだけですか。とのご指摘を受けることも多く、観覧者の満足度を高めていく目的で、展示室を増築するものです。平成29年度に実施設計、30年度に建設の計画です。場所は3階ピロティで面積は同じ138㎡です。

紫金山公園ビジターセンターは、紫金山公園のビジターに対して、展示解説等と「市域の自然に関する自然保護、生態系の保全の重要性を学ぶ自然観察学習の拠点とする。」という位置づけです。機能として、展示、調査研究、学習、また博物館の分館的な位置づけとして、博物館に係わって頂いていますボランティアのみなさんが活動するスペースを確保したいと思っています。時期は、平成32年度実施設計、平成33年度建設工事です。全て一度に進めればいいですが、費用の問題やいろんな準備等があって、同じ年に一気にというのは中々難しいです。博物館としては、まず収蔵庫、それから特別展示室、そしてビジターセンターの順番で取組んでいきたいと思っています。これはあくまで要求ですので、認められたわけではありません。これから査定となりますが、例年ゼロ査定になっていたというのが経過です。新市長にその辺りのことを説明させて頂く機会もこの間持てました。少し明るい見通しが出たかと思っております。

(議 長) ありがとうございます。この案件につきましては、報告ということで査定内容と報告をお願いします。

(副館長) 来年の第一回協議会にご報告をいたします。

(議 長) 時間の方が来てしまいました。先ほど特別展の紹介がありましたので、ご覧いただけたらと思います。平成27年度第2回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。